

日本計量生物学会 ニュース・レター No.34

1991年1月

目次

巻頭言

日本計量生物学会1991, 1992年度役員選挙について
日本計量生物学会会則
日本計量生物学会役員選出に関する細則
日本計量生物学会選挙管理委員会内規
日本計量生物学会被選挙人名簿
日本計量生物学会1991年度年会のお知らせ
論文投稿のお願い
日本計量生物学会1990年度第3回理事会議事録(抄)
会計理事からのお知らせとお願い
その他

奥野 忠一(東京理科大学工学部)

図1のダイアグラムはわが国ではかなり知られているとおもう。敗戦直後の1946年に米進駐軍の一員として来日した天然資源局(GHQの一機関)のDr. J.C. Dodson(G.W. スネデカーの弟子)が, W.H. Leonard and A. G. Clark "Field Plot Technique" から引用して農業技術者に紹介した。筆者はこの日本語訳を図1とはすこし違った図2のように第II原則を randomization として農業・工業の諸分野での実験計画法の講義につねに使っていた。

1960年夏国際統計協会(ISI)第32回総会が東京で開かれたときは, Fisher-Neyman 論争が再現されて非常に面白かったが, その合間に Fisher は当時筆者の所属していた農業技術研究所の試験設計研究室を訪ねてくれた。壁にはおいた図2を見て, 非常になつかしがり, これは自分が若い頃ポーランドで講義したとき描いたものだと言われた。それで筆者は, Fisher 自身からもお墨付きをもらったと考え, その原典も調べもせず今日まで過ごしてきた。

1年程前, 現会長の佐久間昭先生から, Marcel Dekker Inc. 発行の "The Fascina-

R・A・Fisherの実験計画法の3原則

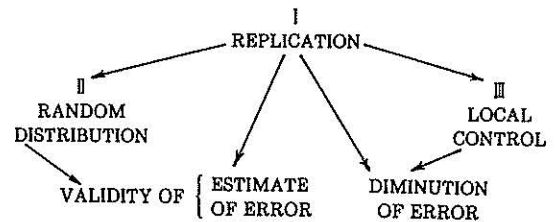


図1 Principles of Field Experimentation.

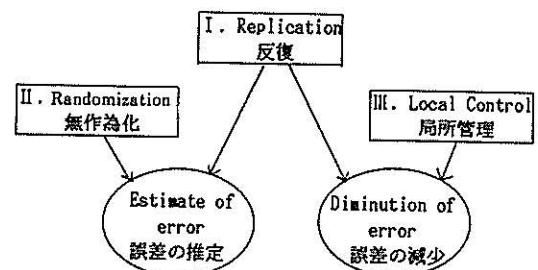


図2 フィッシャーの3原則

tion of Statistics" ed. Brook, R.J. et al の第19章 "Some Sidelights on Experimental Design" by Arthur A. Rayner (Univ. of Natal, South Africa) に出ている図1の原典を知っているかと尋ねられた。"調べましょう"と安請合いをしたものの, 上述のような事情でもあり, Leonardの本もみつからないのでお答えができないままでした。

今年の7月ハンガリーのブタペストで開か

れた第15回IBC（国際計量生物学会議）に出席したとき、レセプションやバンケットなどの機会をとらえて、何人かの英国系統計学者をつかまえて図1のソースを聞きまわった。かってロザムステッドにいたエヂンバラ大学の D.J. Finney や J. Gower, また Peter Armitage や D.R. Cox, ケンブリッジの A.W.F. Edwards, ベルギーの P. Dagnelie など接触したが、驚いたことに誰もこの図を見たことがないと言う。これが Fisher のものなら Fisher の研究室にはってあるはずだが、そんなものはなかったし、Fisher はポーランドへ行ったことはないのではないかという疑念まで登場した。揚句の果てに、Scottish Agricultural Statistics Service (SASS) の Director をしている R.A. Kempton が最近までロザムステッドにいたから彼に調べてもらおうということになった。帰国後まもなく Kempton から資料が送られてきて、図1は、1931年5月7日に Sir A.D. Hall の司会の下でロザムステッド農業試験場で開催された第8回 Conference

“The Technique of Field Experiments” での Fisher の論文 “Principles of Plot Experimentation in Relation to the Statistical Interpretation of the Results” (pp.11-13) のなかに与えられていることがわかった。これが原典であるらしい。この Conference には、J. Wishart ら9人の統計学者が農業実験計画法について論じている。また、この Fisher の論文は、佐久間先生の紹介された Rayner の19章の参考文献にも出ている。このユニークな図が、米国や南ア、日本にも伝わり、いつまでも引用されているのに、本場の英国では誰も知らなかったというのは面白い現象である。日本には入っていなかったこの Conference の資料や Rothamsted Experimental Station の annual reports には、1930年代に “randomization” が justify されるまでの論争が盛り沢山に出ている。ひとつの手法が広く適用されるに至るまでの経過を知る上で、非常に興味深いものとおもう。

日本計量生物学会 1991, 92年度役員選挙について

下記の要領で実施されますのでお知らせします。

日本計量生物学会1991, 92年度役員選挙要領

- 1 本ニューレターの p.5～9 の被選挙人名簿から、理事を3名、監事を1名選出し同封の投票用紙に記入してください。なお、会費を2年以上滞納している人には、選挙権・被選挙権ともにありません。
- 2 締切日は1991年1月31日です。(消印有効)
- 3 次の投票は無効となります。
 - 1) 所定以外の用紙による投票
 - 2) 理事3名、監事1名を越えて記入した投票
 - 3) 投票者の氏名など余分な記入のある投票
- 4 詳しくは、本ニューレター p.4 の選挙細則を御覧ください。

日本計量生物学会 選挙管理委員会

委員長 上坂 浩之
委員 佐藤 俊哉

日本計量生物学会会則

〔総則〕

1. 本会は日本計量生物学会 (The Biometric Society of Japan) と称する。

2. 本会の事務局は、原則として庶務理事の所属する機関におく。

〔目的及び事業〕

3. 本会は生物学・医学・農学その他の関連分野における科学的研究を計量的・数学的・統計的方法を用いて推進するとともに、その研究の普

及、研究者相互の交流を促進し、かつ、外国の研究団体との連絡を図ることを目的とする。

4. 本会は前条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。

- (1) 研究発表会・講演会・シンポジウムの開催
- (2) 会誌・図書および資料の刊行
- (3) 外国の関連学会との連絡および協力
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

〔会員〕

5. 本会の会員は次のとおりとする。

- (1) 正会員……第3条にあげた研究に従事する者またはそれに関心を有する者
- (2) 学生会員……大学の学生(大学院をふくむ)あるいはこれに準ずる者
- (3) 賛助会員……本会の目的に賛同し、その事業に財政的援助をする者または団体

6. 本会に正会員または学生会員として入会しようとする者は、正会員1名の紹介により、理事会の承認を受けなければならない。

7. 会費として正会員は年額7,000円、学生会員は4,500円、賛助会員は1口10,000円以上を毎年1月末日までに納入しなければならない。ただし、国際計量生物学会からの機関誌 *Biometrics* の送付を希望しない者の会費は、正会員・学生会員とも年額3,500円とする。

8. 会費を2年以上滞納した者は、理事会において退会したものとみなすことができる。

9. 会員はつぎの特典を受ける。

- (1) 本会が刊行する会誌および資料の配付を受けること
- (2) 本会の行なう事業の通知を受けこれらに参加すること
- (3) 会則及び別に定める規則により、本会役員の選挙権および被選挙権を有すること
- (4) 国際計量生物学会の機関誌 *Biometrics* を年4回受領する(ただし前記7のただし書きに該当する者は除く)

〔役員〕

10. 本会に次の役員を置く。

- (1) 理事若干名、うち1名を会長とする
- (2) 監事2名

11. 理事および監事は正会員のなかから選任する。役員の選任方法については総会で定める。

会長は理事会において互選する。

12. 会長は本会の業務を総理し、理事会の議長となり、また本会を代表する。

理事は理事会を組織し、総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。理事のなかから庶務担当・会計担当および編集担当をそれぞれ1名選任する。

13. 本会の役員の任期は2年とし再選を妨げない。

14. 役員に欠員を生じたときは、理事会の議決により後任を補充することができる。後任者の任期は前任者の残りの期間とする。

〔会議〕

15. 本会の会議は総会と理事会とする。総会は通常総会と臨時総会とする。

総会は正会員・学生会員および賛助会員のなかの個人会員をもって組織する。

理事会は理事をもって組織する。

16. (1) 通常総会は毎年1回4月に会長が招集する。

(2) 臨時総会は理事会または監事が必要と認めたとき、会長が招集する。また、会長は正会員の10分の1以上から会議の目的を記載した書面による請求があったときは、これを招集しなければならない。

(3) 通常総会を招集するには少なくとも6週間以前に、会議の目的である事項、日時および場所を記載した書面をもって会員に通知しなければならない。

17. 通常総会の議長は会長とし、臨時総会の議長は出席正会員の互選によって定める。

18. 総会はこの会則で定めるもののほか、次の事項について議決する。

- (1) 事業計画および収支予算についての事項
- (2) 事業報告および収支予算についての事項
- (3) その他本会の運営に関する重要な事項

19. (1) 総会は正会員現在数の5分の1以上の者が出席しなければ、その議事を開き、議決することができない。ただし、当該議事につき、あらかじめ書面をもって意思を表示した者または表決の委任者は出席者とみなす。

(2) 総会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

20. 理事会はこの会則に定めるもののほか、次の事項について議決する。

- (1) 総会に提案すべき事項
- (2) 会務の執行に関する事項
- (3) その他会長が必要と認めた事項

〔会則の変更および解散〕

21. 本会則の改正には総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

〔補則〕

1. 本学会は国際計量生物学会IBSの日本支部を兼ねる。
会長、庶務理事、会計理事はそれぞれ同支部のPresident, Secretary, Treasurerを兼務する。
2. IBSのCouncil memberは本学会の理事に就任する。
3. 1984年度の会費は現行のままとし、上記7.の会費は1985年より施行する。
(正会員7,000円、学生会員4,500円)

日本計量生物学会役員選出に関する細則

(総則)

1. 本会の役員の選出、および委嘱等は会則のほか、この細則の決めるところによる。
2. 理事の定数は、当分の間20名以内とする。
ただし、そのうちの15名の選出は正会員の選挙による。他は選挙後の当選人による連絡会議に於て必要に応じて推薦により追加するものとする。
3. 監事は2名とし、選出は正会員の選挙による。
ただし、理事は監事を兼ねることができない。
4. 会長、庶務理事、会計理事は理事会が理事の中から互選し、総会の承認を経て選出する。
5. 各種委員会の委員は、理事会において委員長を理事の中から委嘱し、他は正会員の中から選考し、委嘱する。
6. 役員の任期は、理事および監事の選挙後の総会から2年後の総会までとする。ただし、中途就任の役員の任期は、就任の日から前記の期間とする。

(理事および監事の選挙)

7. 理事および監事は、郵送による無記名投票によるものとする。
8. 選挙を公正、かつ円滑に進めるために、選挙管理委員会を設置し、その管理下で実施する。

9. 理事および監事の選挙人と被選挙人は、選挙年の1月1日現在、正会員であるものに限る。
10. 選挙方法等は、選挙管理委員会内規として別に定める。

(当選者の就任)

11. 理事および監事に当選したものは、原則として就任を辞退できない。

(追加工事の推薦)

12. 理事の当選人は選挙直後に連絡会議を開催し、必要に応じて推薦理事5名以内を選出することができる。
13. 推選理事の選出は、会則の補則2条によるものの他は、当選理事の専攻分野と地域性等を配慮して行なう。

(三役の選出)

14. 会長、庶務理事、会計理事の選出は、選挙後の第1回理事会で行ない、総会において承認を得る。ただし、理事会における選出方法は出席理事(委任状提出者も含む)の互選による。

日本計量生物学会選挙管理委員会内規

1. 選挙管理委員会(以下、委員会)は、理事会が正会員の中から委嘱する委員長1名、委員1名により構成される。
2. 委員会は、選挙日程(投票締切日、開票日など)、選挙人および被選挙人の資格条件等を決定し、有資格の正会員に告示し、選挙を実行する。
3. 投票は、郵送による無記名投票とし、委員会が定めた投票用紙により、理事3名、および監事1名を投票する。
4. 所定の用紙以外による投票や、差出人(投票者)の氏名を記した投票は無効とする。
5. 投票用紙の送付に際しては、以下の事項を含む文書を選挙人の便に供するため添付する。
 - (1) 選挙人および被選挙人の資格、投票の郵送先、投票締切日、投票の有効性などの概要
 - (2) 被選挙人名簿
 - (3) その他、委員会が必要と認める事項
6. 開票作業は、選挙管理委員会が行なう。
7. 当選人の決定は、以下の規則に従うものとする。
 - (1) 理事は、有効投票の最多数の得票者から順

に上位15名を当選人とする。

(2) 監事は、有効投票の最多数の得票者から順に、理事の当選人以外の上位2名を当選人とする。

(3) 理事、監事の当落の境界に同数の得票者があり、定数を越える時は、委員会が抽選で選ぶ。

(4) 当選人の決定に関して疑義が生じた場合は、そのつど委員会に於て決定する。

8. 開票後、委員会は当選人に当選の旨をすみやかに通知する。また、委員長は、理事会に対して以下の報告書を提出する。

(1) 投票締切日、開票日時および場所

(2) 有権者総数、有効投票人数、無効投票人数、有効記名数

(3) 理事、監事の当選人の氏名、得票数の一覧表

9. 委員会の任務は、当選人への通知と理事会への報告書提出をもって終りとする。

日本計量生物学会被選挙人名簿

(1991年1月1日現在)

*** 北海道・東北 ***

石栗 秀	日本甜菜製糖(株) 総合研究所
今田 和史	北海道立水産孵化場
井本 精一	(株)化合物安全性研究所
小川 光一	岩手医科大学 歯学部
織田健次郎	東北農業試験場
北村 昌美	山形大学 農学部
佐藤 義治	北海道大学 工学部
柴田 和博	北海道バイオテクノロジー専門学校
柴田 信明	岩手大学 農学部
須川 和明	北星学園大学 経済学部
関口 武司	いわき明星大学 理工学部
中村 典裕	秋田県立農業短期大学
早川 康博	北里大学 水産学部
宮井 俊一	東北農業試験場

*** 関 東 ***

浅井 晃	東洋大学 経済学部
安達 直	慶応義塾大学 医学部
安達 健	森永乳業(株) 生物科学研究所
安楽 和夫	統計数理研究所

飯田 一郎	(株)小林コーセー研究所
飯塚 悦功	東京大学 工学部
石井 丈夫	東京大学 海洋研究所
石垣 智子	東京大学 医学部
石毛 光雄	農業生物資源研究所
石塚 直樹	東レシステムセンター
石原 龍雄	神奈川県農業総合研究所
石間 紀男	食品総合研究所
市川 雅教	東京外国語大学
稲岡 則子	日本アイ・ビー・エム(株)
井上 俊昭	塩野義解析センター
井村 治	農業環境技術研究所
岩崎 学	防衛大学校
上坂 浩之	ヘキストジャパン(株)
上原 秀昭	(株)ツムラ
上村 一夫	流通経済大学
上村 賢治	東京大学 農学部
魚井 徹	山之内製薬(株)
鶴飼 保雄	農業環境技術研究所
宇田川武俊	農業環境技術研究所
大石 正平	科研製薬(株)
大内 幹夫	サントリー(株)
大隅 昇	統計数理研究所
大塚 克己	群馬県蚕業試験場
大塚 雍雄	農業工学研究所
大塚 芳正	日本ロシュ(株)
大槻 成章	呉羽化学工業(株)
大友 栄松	東京国際大学
大橋 靖雄	東京大学 医学部
岡 健司	(株)日本海洋生物研究所
尾形 良彦	統計数理研究所
岡本 直幸	神奈川県立がんセンター
奥住 幸雄	日本アップジョン(株)
奥野 忠一	東京理科大学 工学部
折笠 秀樹	エーザイ(株)
開原 成允	東京大学 医学部
笠松不二男	(財)日本鯨類研究所
方波見重兵衛	埼玉県衛生研究所
門山 允	東京国際大学 商学部
金森 雅夫	国立公衆衛生院
鎌倉 稔成	中央大学 理工学部
神尾 正己	東京慈恵会医科大学
管家 英治	宇都宮大学
菅野 隆三	東京歯科大学

岸野 洋久	東京大学海洋研究所	高木 廣文	統計数理研究所
熊谷 明夫	東京田辺製薬(株)	高津 順吉	大洋漁業(株)
熊沢 蕃	日本原子力研究所	高野 泰	東京大学 農学部
栗木 哲	東京大学 工学部	高宮 陽一	(株)日本技術資料センター
栗原 律子	エーザイ(株)	滝沢 隆安	動物繁殖研究所
敵 浩	東京大学 医学部	田栗 正章	千葉大学 理学部
国府田 晃	東京理科大学 理工学部	竹内 啓	東京大学 先端科学技術研究センター
小谷 孝一	東京理科大学 理工学部		
小西 貞則	統計数理研究所	竹澤 邦夫	農業環境技術研究所
小林 廉毅	帝京大学 医学部	龍原 哲	東京大学 農学部
小林 龍一	立教大学	田中 健	(株)日本科学技術研修所
駒澤 勉	統計数理研究所	種村 正美	統計数理研究所
小松 勇作		田宮 高紀	東京理科大学 理工学部
近藤 貞昭	農業生物資源研究所	田村 義保	統計数理研究所
斉尾乾二郎	東京大学 農学部	丹後 俊郎	国立公衆衛生院
佐伯圭一郎	獨協医科大学	津田 義和	立教大学 一般教育部
斉藤 弘	第一製薬(株)	椿 広計	慶応義塾大学 理工学部
酒井 清六	大東文化大学	椿 美智子	電気通信大学
坂巻 弘之	サントリー(株)	津村 善郎	東京理科大学 理学部
佐久間 昭	東京医科歯科大学難治疾患研究所	富沢 貞男	東京理科大学 理工学部
佐々木 貴	ファルミタリア カルロエルバ(株)	朝野 芳郎	エーザイ(株)
佐々木秀雄	東洋醸造(株)	永井 正規	自治医科大学
定村 薫	東京国際大学	中池 司郎	大正製薬(株)
佐藤 邦弘	日本化学工業(株)	長谷 文雄	日本ルセル(株)
佐藤 喬俊	日本シンテックス(株)	永見 俊之	日本農薬(株)
佐藤 俊哉	東京大学 医学部	中村 和雄	農業研究センター
佐藤 昇	ファイザー製薬(株)	中村 靖彦	ソルベイ明治薬品(株)
塩谷 実	東京理科大学 理学部	西尾 敦	明治学院大学 経済学部
塩見 正衛	農業環境技術研究所	西川 匡英	森林総合研究所
篠崎 信雄	慶応義塾大学 総合政策学部	西川 浩昭	東邦大学 医学部
渋谷 政昭	慶応義塾大学 理工学部	二宮 正士	東京大学 農学部
嶋津 靖彦	水産庁	沼田 真	淑徳大学 社会福祉学部
清水 邦夫	東京理科大学 理工学部	野口 岩男	昭和大学 教養部
清水 秀史	三井製薬工業(株)	野沢 昌弘	東京理科大学 工学部
新藤 純子	農業環境技術研究所	芳賀 敏郎	東京理科大学 工学部
杉浦 成昭	筑波大学	袴田 共之	農業環境技術研究所
杉田 稔	東海大学 医学部	橋本 修二	国立公衆衛生院
杉森 俊彰	日本アイ・ビー・エム(株)	長谷川政美	統計数理研究所
杉山 高一	中央大学 理工学部	秦 正弘	鳥居薬品(株)
鈴木 和幸	電気通信大学	畑村 又好	
鈴木義一郎	統計数理研究所	鳩山由紀夫	衆議院議員
鈴木 浩司	萬有製薬(株)	馬場 康維	統計数理研究所
鈴木 冬香	東京大学 医学部	林 邦彦	山之内製薬(株)
関 利之	日本シンテックス(株)	林 知己夫	放送大学

樋口伊佐夫 帝京技術科学大学
 菱沼 従尹 (財)寿命学研究会
 姫野 信吉 東京女子医科大学 リウマチ・通
 風センター
 平河 威 三井製薬工業(株)
 平川 正勝 協和図書(株)
 廣津 千尋 東京大学 工学部
 福士 敏彦 日本スクイブ(株)
 福富 和夫 国立公衆衛生院
 藤田 利治 国立公衆衛生院
 伏見 正則 東京大学 工学部
 船喜 光一 持田製薬(株)
 逸見 功 東京都神経科学総合研究所
 細野 泰彦 武蔵工業大学
 堀江 正樹 農林水産技術情報協会
 本多 正幸 千葉大学 医学部
 牧野 国義 都立衛生研究所
 増山元三郎 東京理科大学 理学部
 松井 研一 三共(株)
 松永 隆司 食品総合研究所
 松宮 義晴 三重大学
 松本 幸雄 国立環境研究所
 三浦 邦彦 オリソパス光学工業(株) 染色体研
 究センター
 水野 隆一 ファイザー製薬(株)
 三中 信宏 農業環境技術研究所
 宮岡 悦良 東京理科大学 理学部
 宮川 強 東京理科大学 理工学部
 宮川 三郎 栃木県農業試験場 栃木分場
 三輪 哲久 農業研究センター
 村上 正康 敬愛大学
 矢島 敬二 東京理科大学 工学部
 柳井 晴夫 大学入試センター
 柳本 武美 統計数理研究所
 矢船 明史 北里研究所
 山岡 和枝 帝京大学 法学部
 山口 行治 呉羽化学工業(株) 東京研究所
 山崎 秀夫 東京都立大学 理学部
 山本康次郎 東京大学 医学部
 山本 幹夫 総合保健研究所
 横田 嘉彦 ファイザー製薬(株)
 横山 英明 自治医科大学
 吉川 敬 NTT
 吉澤 正 筑波大学大学院 経営システム科学

吉田 正昭 中央大学
 和田 康彦 畜産試験場
 渡辺 敏彦 科研製薬(株)
 渡辺 則生 中央大学 理工学部

*** 中部・甲信越 ***

浅井 清朗 名古屋経済大学
 飯嶋 弘 キッセイコムテック(株)
 五十嵐俊二 エーザイ(株) 安全性研究部
 伊藤 孝一 南山大学
 内田 良男 愛知学院大学 教養部
 小澤 賢一 キッセイ薬品工業(株)
 木村 清郎
 香田 繁 (株)生物化学技術研究所
 河本 綏雄 東京理科大学 諏訪短期大学
 五条堀 孝 国立遺伝学研究所
 嶋崎 昭典 信州大学 繊維学部
 新保 外志 富山県立技術短期大学
 高田 和彦 新潟大学 農学部
 西岡 孝彦 信州大学 繊維学部
 廣沢 毅一 松本歯科大学
 藤野 和建 長岡技術科学大学
 蓬原 雄三 名古屋大学 農学部
 細萱 茂実 山梨医科大学
 堀内 徳高 中央協同組合学園
 増田 賢司 山梨学院大学 商学部
 松沢 照男 沼津工業高等専門学校
 三浦 幹彦 信州大学 繊維学部
 山本 和子 福井医科大学
 吉村 功 名古屋大学 工学部

*** 関 西 ***

浅野 弘明 京都府立医科大学
 安達 毅 日本臓器製薬(株)
 稲垣 宣生 大阪大学 基礎工学部
 稲田 紘 国立循環器病センター研究所
 浦狩 保則 塩野義解析センター
 大槻 徹 住友製薬(株)
 大西 健三 アース製薬(株)
 緒方 昭
 丘本 正 追手門学院大学 経済学部
 小川 幸男 日本商事(株)
 片山 和夫 塩野義解析センター
 河村 徹郎 大阪府立成人病センター
 岩崎 正和 ハイエル薬品(株)

木船 義久	武田薬品工業㈱
浄住 勤慈	大日本製薬㈱
隈本 秀樹	
後藤 昌司	塩野義解析センター
米虫 節夫	近畿大学 農学部
小山 武信	和歌山県衛生公害研究センター
澤 淳悟	日本シェーリング㈱
庄武 孝義	京都大学 霊長類研究所
白岩 直人	バイエル薬品㈱
新谷 茂	(財)日本中毒情報センター
惣田 隆生	塩野義解析センター
武田 裕	大阪大学 医学部
竹綱 正典	田辺製薬㈱
田崎 武信	塩野義研究所
田中 和哲	㈱ミドリ十字
辻谷 将明	神戸女子大学 文学部
寺西 孝司	塩野義解析センター
徳永 修	吉富製薬㈱
百々 秀夫	大日本製薬㈱
永田 久紀	武庫川女子大学 家政学部
中田 雅臣	大塚製薬㈱
西 次男	日本チバガイギー㈱
野沢 謙	京都大学 霊長類研究所
浜田知久馬	武田薬品工業㈱
古川 俊之	国立大阪病院
前田 博	藤沢薬品工業㈱
前田 玲	京都薬品工業㈱
松岡 浄	藤沢薬品工業㈱
松原 義弘	塩野義解析センター
宮井 正弥	姫路独協大学 一般教育部
森川 敏彦	武田薬品工業㈱
八坂 敏夫	P.L.メディカルセンター
山内 平介	大日本製薬㈱
吉田 全範	市立泉佐野病院
米澤 勝衛	京都産業大学 国土利用開発研究所
和田 武夫	武田薬品工業㈱

*** 中国・四国・九州 ***

赤澤 宏平	九州大学 医学部
有田清三郎	川崎医科大学
飯淵 康雄	琉球大学 医学部
池田 正人	産業医科大学
稲田 充男	島根大学 農学部

江口 真透 島根大学 理学部
~~大久保利晃 産業医科大学~~

大瀧 慈	広島大学原医研
大竹 正徳	放射線影響研究所
越智 義道	大分大学 工学部
景山 三平	広島大学 学校教育学部
刈谷 丈治	山口大学 情報処理センター
仮谷 太一	川崎医学大学
工藤 昭夫	九州大学 理学部
甲田 茂樹	岡山大学 医学部
河野 和正	九州大学 教養学部
後藤みづみ	吉富製薬㈱
近藤 久義	長崎大学 医学部
阪口 紘治	九州大学 教養部
佐藤 学	広島大学 工学部
柴田 義貞	放射線影響研究所
志村 健一	琉球大学 法文学部
正法地孝雄	広島大学 総合科学部
白木原国雄	長崎大学 水産学部
新城 明久	琉球大学 農学部
杉村 正彦	九州東海大学 工学部
陶山 昭彦	鳥取大学 医学部
田中 豊	岡山大学 教養部
為近 美栄	川崎医科大学
垂水 共之	岡山大学 教養部
辻岡 克彦	川崎医科大学
坪田 信孝	広島大学 医学部
永井 武昭	大分大学 工学部
中島 栄二	放射線影響研究所
中西 晃	吉富製薬㈱
中村 剛	長崎大学 医学部
橋本 哲男	広島大学原医研
早川 武彦	広島大学原医研
兵頭 義史	岡山理科大学 理学部
平岡 政隆	広島大学原医研
平川 顕名	島根医科大学
葺石 安利	川崎医科大学
藤井 良宜	宮崎大学 教育学部
藤越 康祝	広島大学 理学部
藤田正一郎	放射線影響研究所
松浦 正明	広島大学原医研
松尾 良満	佐賀県農業試験場
松本 源生	福岡県衛生公害センター
務中 昌己	広島大学原医研
守屋 和幸	宮崎大学 農学部

柳川 堯	九州大学 理学部	*** 国 外 ***
山口 直人	産業医科大学 産業生態科学研究 所	井山 審也 マレーシア農科大学 神保 武夫 F A O (在 Italy)
山本 英二	岡山理科大学	鈴木 茂 J I C A (在 Chile)
山本 純恭	岡山理科大学	Hong-Pang Wu Taiwan
山本 脩	呉女子短期大学	Tsan-Long Lin Taiwan

日本計量生物学会 1991年度年会のお知らせ

標記の年会を下記の要領で開催することになりましたので、奮って御参加下さい。

1. 日 時：1991年4月20日（土）
2. 場 所：丸の内センタービル20階大会議室
3. 参加費：2000円（資料代含む）
4. 特別セッション

テーマ：繰り返し測定データの解析

オーガナイザー：吉村 功（名古屋大学工学部）

講演題目

反復測定された臨床データに対する多次元正規分布モデルのあてはめ

矢船明史（北里研究所 バイオイアトリックセンター）

経時対応データの比較の方法

浦狩保則（塩野義製薬 解析センター）

Repeated measurements 解析に関するいくつかの統計的問題について

丹後俊郎（国立公衆衛生院 疫学部）

5. 一般講演

- (a) 申込方法：官製葉書に氏名、連絡先（所属、住所、電話番号）、演題名（英文タイトル併記）を記入して下記送り先へお申し込み下さい。
- (b) 申込締切：1991年2月28日（木）
- (c) 原稿の提出について
講演申込者には後日、所定の複写用原稿用紙をお送りします。

(f) 発表用原稿（2枚）

提出締切：1991年3月30日（土）

(g) Bulletin 掲載用原稿（15枚以内）

提出締切：1991年6月15日（土）

年会にて発表された演題はすべて本学会誌「Bulletin of Biometric Society of Japan」に掲載予定ですので、発表内容を論文形式にまとめて上記締切日までにお送り下さい。なお、英文・和文のどちらでも結構ですが、和文の場合は

- ① 英文の Summary, Key words を必ず付ける。
- ② ワープロまたはタイプ印刷をする。

を励行して下さいようお願いします。

Bulletin は International Biometric Society の日本支部の活動状況を本部に報告する重要な機関誌であり、その英文アブストラクトは英文ニュース Biometric Bulletin に掲載されますので、ご協力をお願い致します。

6. 送り先

講演申込および原稿の提出はすべて日本計量生物学会事務局（住所は最後の頁に記載されています）にお送り下さい。

企画担当理事 後藤 昌司
佐藤 喬俊
高野 泰
福富 和夫

付記：1991年4月19日（金）には、同場所にて応用統計学会年会が開催される予定です。

論文投稿のお願い

従来 Bulletin は本学会の年会の Proceeding としての役割を果たしてきましたが、会員相互間の研究情報の流通、伝達手段として、より有効に機能する Bulletin をめざすため、年会に発表された論文以外に、『投稿論文』、『特集論文』なども掲載し、幅の広い内容を持った Bulletin へと改善することが去る1986年度第1回理事会で決定されております。活発な投稿を促す意味も含めて、Preprint 的な論文も歓迎しますが、日本語ワープロ、もしくは英文タイプの原稿作成を条件とします。会員各位の研究成果の積極的な御投稿をお願いします。なお、投稿に際しては予め投稿用原稿用紙および原稿作成要領を事務局あて御請求下さい。なお事務局の住所は本ニューズレターの最終頁に記載されています。

Bulletin 編集担当理事 吉村 功

日本計量生物学会1990年度 第3回理事会議事録

日 時：1990年9月26日（水）18：00－20：55

場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷

出席者：魚井、奥野、後藤、駒澤（会計）、佐久間（会長）、佐藤、正法地（庶務）、高木、高野、種村、丹後、柳川、吉村（以上理事）、栗原（事務局）

報告・審議事項：

第16回 IBC（ニュージーランドのハミルトン）の Scientific Program Committee のメンバーに伊藤孝一会員が指名された。本学会が日本学術会議会員推薦管理会より第15期日本学術会議会員の選出に係わる学術団体として登録された。Bio-

metric Society 本部より次期本部役員（Vice-President, Biometrics の Editor および Bulletin の Editor）を（出来れば Anglo-America 以外から）推薦してもらいたいとの依頼があったが、日本からは推薦しない事とした。学会本部より1991年度より年会費を35ドルに値上げしたいと通知があった。対応策を審議した結果1991年度はB会員の会費を1,000円値上げする事とした。1991年度の会費徴収時に値上げした金額を説明をつけて通知する。次の総会で遡って値上げする事を提案する。

「毒性研究のための計量生物国際会議」の組織委員会より次の報告があった。外国からの招待講演者は8名（M. Andersen, L. Edler, D.G. Hoel, S. Lagakos, B.H. Margolin, C. Portier, S. Fredrick, Keith A. Soper）が決定したが日本側の招待講演者7名はまだ未定である。毒性試験のための生物統計シンポジウムは計量生物国際会議組織委員会が主催し開催日程は1990年12月14－15日、場所は野口英世記念館2階講堂である。参加料は15,000円である。なお、教育機関、国公立研究機関および行政担当の者の参加料は10,000円である。シンポジウムでは毒性試験の研究の現状を計量生物学関係者に認識してもらう事を一つの目的とする。

会計理事からのお知らせとお願い

1) 1991年度会費について

(1) A会員（国内会員）の会費は1990年度総会（1990年4月20日）において1991年度から1,000円の値上げが認められ、1991年度からの会費は3,500円になります。

(2) B会員（国内・国際会員）の本部送金額が1991年度から35ドル/人（現行22ドル/人）に大幅値上げが本部から正式に連絡（11月2日付け）

がありました。

本学会ではこの対策を前号 (No.33) にてお知らせした通り実施することなどを11月15日の理事会で決めました。①A会員との均衡、および当面の学会運営の健全財政を考慮して1991年度から「1,000円の値上げ(案)」を本年4月20日の総会に提案することとし、総会前に値上げに賛成いただける方については、事前に1991年度会費納入に当たって、現行7,000円に1,000円を加えた計8,000円を暫定的に納入していただくこととした。②今後、B会員の会費額の適切な在り方については理事会で慎重にいろいろな視点から討議し、早急に草案をつくり総会で審議していただく予定とした。③B会員の会費値上げによる退会希望者にはA会員に慰留をお願いすることにした。

B会員のご理解とご協力をお願い致します。なおC会員の会費は現行通りです。

2) 1990年度の会費未納の方をお願い

昨年度はまだ40数名の未納の方がおられます。早急に納入をお願い申し上げます。本学会の会計年度は国際計量生物学会に合わせて1～12月です。(ニュース・レターNo.27でお願いしましたように、前年度分までの会費未納者(A会員を除く)にはBiometricsが届かなくなります。未納の方は本年度分と合わせ至急納入をお願い申し上げます。)

会 費	1990年度	1991年度
A会員	2,500円	3,500円
B会員	7,000円	8,000円(予定)
C会員	4,500円	4,500円

郵便振替口座：

東京 5 - 22365 日本計量生物学会

銀行振込口座：

第一勧業銀行飯田橋支店

普通 061-1499027

日本計量生物学会 会計理事 駒澤 勉

日本計量生物学会事務局

〒162 東京都新宿区神楽坂 1 - 3

東京理科大学工学部経営工学科

奥野研究室

Tel. (03) 3260-4271内3339

栗原恵美子